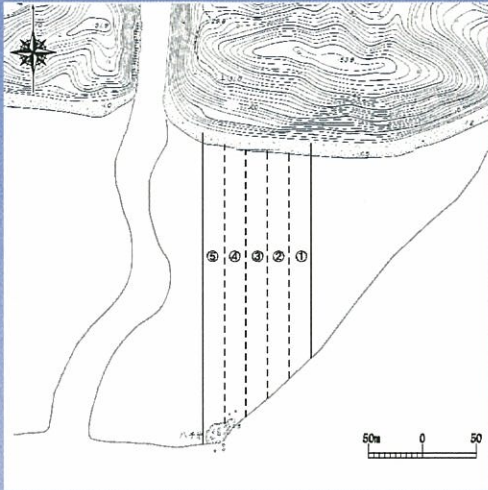
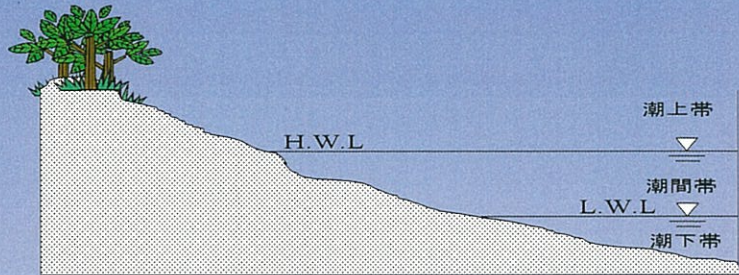


# マッピング調査 調査方法

## 1. 調査範囲



- ・調査範囲は、汀線沿いに約100mとします。調査範囲を5ブロックに分割（1ブロック20m）し、ブロック毎に観察を行います。
- ・汀線直角方向では潮上帯から潮間帯とします。



## 2. 潮間帯生物調査方法

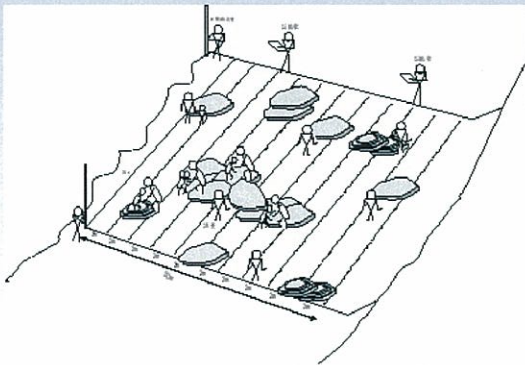
各ブロックの陸側において汀線と水平に並び、海側に前進しながら調査対象生物を観察します。また、岩礁部と干潟部で調査方法を分けて観察します。調査対象生物は裏面に写真を示しています。

### (1) 岩礁部

各ブロックにおいて対象生物の個体数または被覆度を確認します。個体数または被覆度の観察方法は、図の方法を用いて、見られない～非常に多い、の6段階に分けて記録します。調査対象生物以外に確認された生物種等も記録します。

### (2) 干潟部

各ブロックにつき1～3箇所についてコドラートを設定し、ハクセンシオマネキ、スナガニについては、巣穴の数、アサリについては個体数を記録します。コドラートの設定は指導員が行います。



—: 見られない (0単位)	0単位
r r: 非常に少ない (海岸線10m当たり0.1 単位以上1単位以下)	1単位
r: 少ない (海岸線10m当たり2 単位以上10単位以下)	2単位
普通: (海岸線10m当たり11単位 以上で1m <sup>2</sup> 当たり被覆度 30%以下、または10単位以下)	10単位
o: 多い (1m <sup>2</sup> 当たり被覆度31% 以上50%以下、または11単位 以上100単位以下)	100単位
o o: 非常に多い (1m <sup>2</sup> 当たり被覆度51% 以上、または101単位以上)	1000単位

海藻、優占種 (フジツボ、ムシクシ等) (従属種 (単体のネマやイソ等))  
 被覆度30% 10単位  
 被覆度50% 100単位  
 \* 単位は、単独性のもは個体数、群性性のもは群体数、叢生性のもは叢生体数とする。

図 観察方法

## 3. 潮間帯生物の数の他に、潮間帯生物の住んでいる環境を調べるために以下のことを調べます。

### (1) ゴミ・漂着物調査：ゴミ・漂着物については、次のように分類し、記録します。

産業系	カキ養殖の部材およびカキ殻
生活系	発泡スチロール、ペットボトル、空き缶、空き瓶、ビニール袋など
自然系	海藻、木切れなど

### (2) 基質調査：下の表のように、砂礫の大きさを決定しました。表に従って、各大きさの割合を調べます。

	小	中	大
砂	～0.1 mm	0.1mm～0.5mm	0.5 mm～2.0 mm
礫	2.0 mm～5.0 mm	5.0mm～20mm	20 mm～80 mm
岩	80 mm～1.0 m	1.0 m～2.0 m	2.0 m ～

# 調査対象生物

## 岩礁部

水深



カメノテ



マツバガイ



ケガキ



マガキ



ムラサキイガイ



アナアオサ



オオヘビガイ



ヒジキ

## 干潟部



ハクセンシオマネキ



スナガニ



アサリ

清浄指標種

汚濁指標種

貴重種

特徴的な種